「第７回　ＮＩＥ帯広・十勝セミナー」実践発表資料

２００９年2月１４日

新聞を活用した実践

帯広市立啓西小学校　森谷　栄介

１．はじめに

昨年の４月、ＮＩＥアドバイザーのお話をいただいた。ＮＩＥ活動に携わるようになってから１０年。一見すると、長年実践を積み重ねているようにも見えるが、とりたてて紹介できるような実践でも、自慢できるような実践でもない。アドバイザーのような大役をやらせていただいてもいいものか、正直迷う部分も大きかったが、自分の勉強のためと思い、ＮＩＥアドバイザーを引き受けることにした。

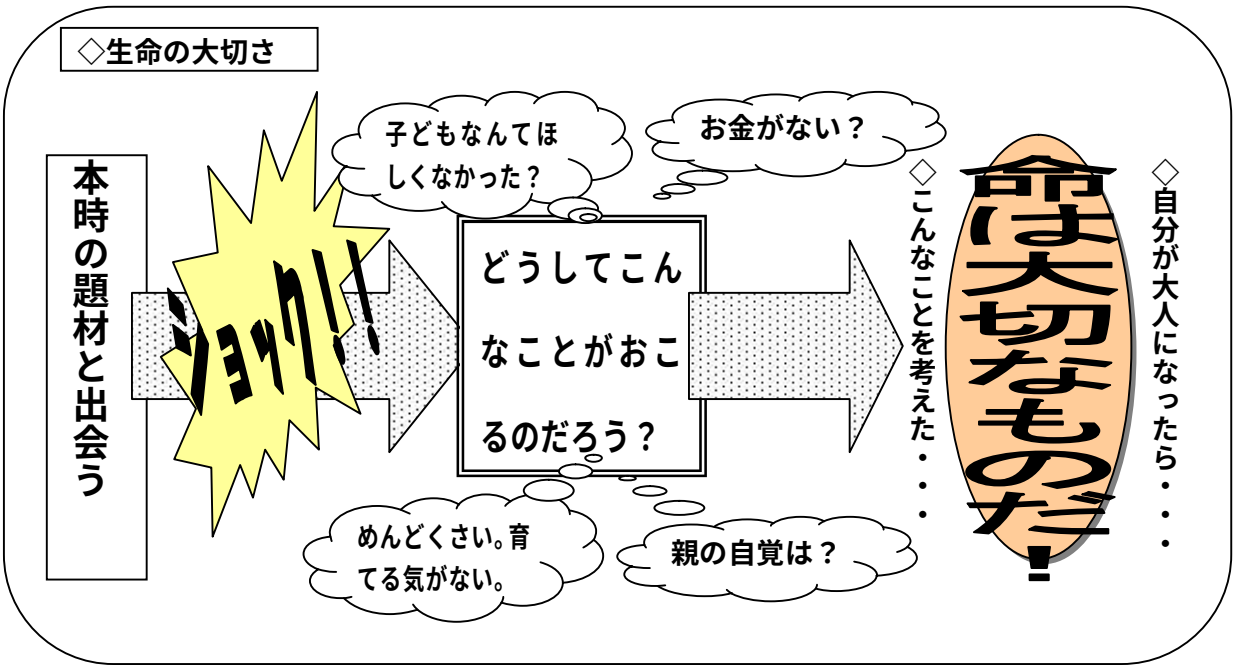
今回の実践発表は、アドバイザーとしての話というよりも、こんな感じでやってみましたという紹介にしかならないが、今年度の実践の中のいくつかを報告させていただく。

２．新聞記事を活用した実践例

（1）「赤ちゃん置き去り事件」の記事を使って

病院の玄関に、赤ちゃんを置き去りにするというショッキングな事件が起きた。しかも、テレビの中での絵空事ではなく、自分達の住む帯広市内で。児童は、この事件をどう受けとめるのだろう、「命」についてどう考えるのだろう、そんなことを考えながら１時間の授業を組んだ。

授業の大まかな流れは以下の通りである。



新聞記事を配ると、シーンと静まり返った。児童は、真剣に記事を読んでいた。あまり発表に積極的ではない児童も、自分の考えを言うことができた。学習して感じたこと、考えたことも、たくさん書くことができた。特に、自分だったら～、私は～したい、のように、自分ごととして考えることができたことが、この１時間の成果としてとらえている。

これは、この新聞記事持つ教材としての力が大きかったのだと考える。子ども達の心に響く記事を提示することの重要性を、改めて実感した。

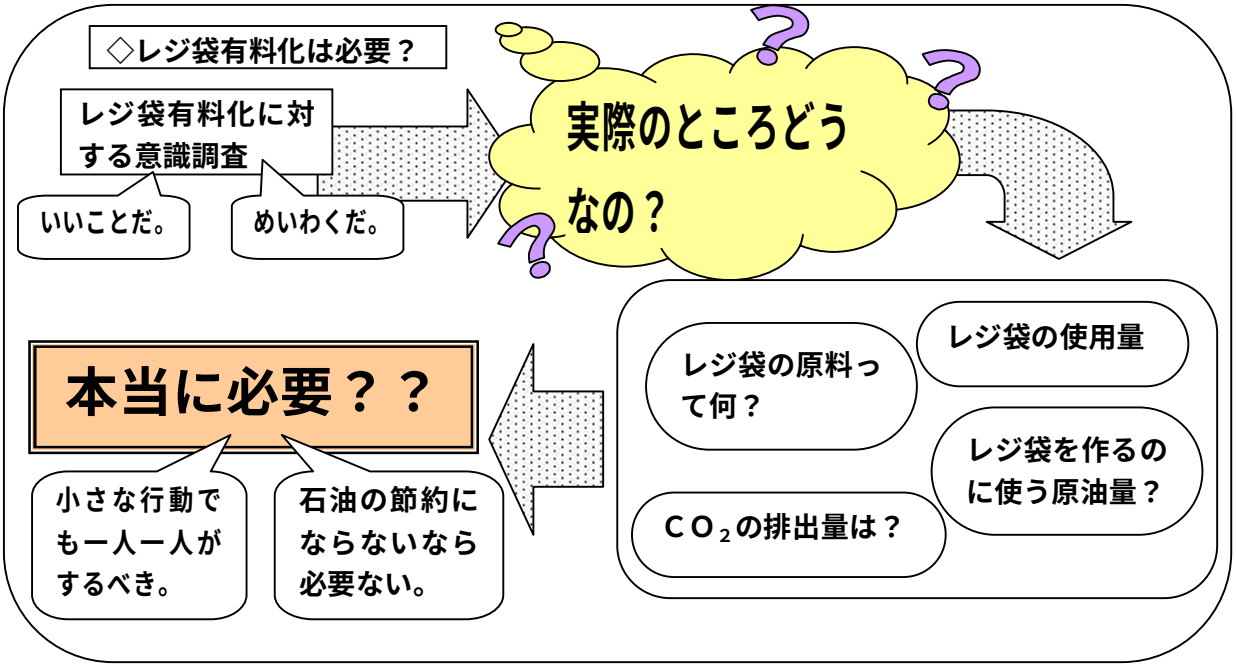
また、事件の続報記事を家庭学習として、ノートにスクラップしてくる児童も数名いた。

（２）「レジ袋有料化」は必要？

総合的な学習の時間で環境問題を取り扱った。「地球だいすき」と題して、地球のためにできることを調べたり、考えたりしたことを新聞にまとめるという流れで単元を組んだ。

ちょうど、市内のスーパーでもレジ袋が有料化された時でもあり、単元の導入段階（２時間目）に、このことを取り上げた。

授業の大まかな流れは以下の通りである。



本時の中での用いた新聞記事は、レジ袋の有料化をテーマとして取り上げたコラム欄。有料化に対する２つの立場を紹介しているものである。授業のまとめの段階で記事を配り、自分はどちらの立場に近いかを考えさせた。

ほとんどの児童は、コラム欄の執筆者と同様に、レジ袋削減の運動を意味がない行動ととらえるのではなく、小さな行動であっても大切にしたいと考えていた。

今回は総合的な学習の時間での取り扱いであったが、レジ袋の有料化は地球のために必要な大事なことですよ、とする一面的な見方ではなく、複数の考え方を提示した上で判断するという、社会科的な要素をもった授業であった。この実践から、物事を一面的にとらえるのではなく、様々な角度から考える力を育てていくうえでも、やはり新聞記事の活用は有効であると考える。

（３）大地震と新聞報道を考える

昨年６月、岩手・宮城内陸地震という、震度６強を記録し、大きな被害を出した災害が発生した。私たちの地元の新聞でも大きく取り上げられ、テレビのニュースでも時間を裂いて報道を繰り返していた。

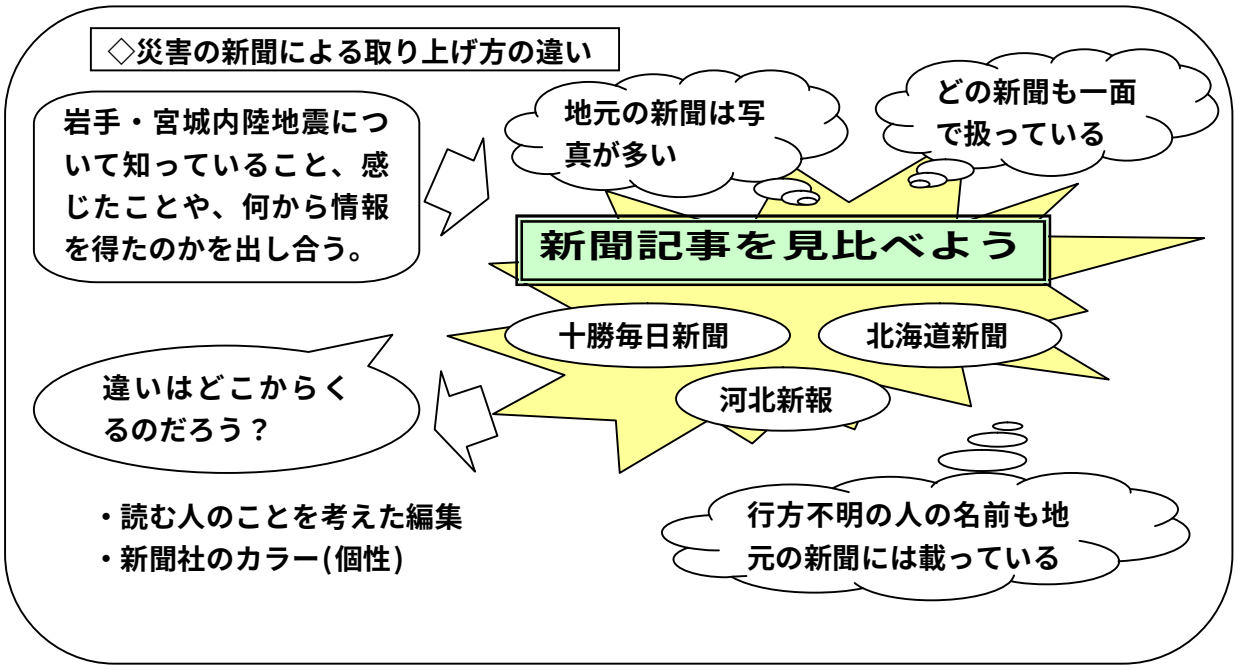
全国的にも大きなニュースであり、授業として取り上げることができないかを考え、新聞機能学習の要素を持った授業として扱うことにした。

本時を行うに当たり、災害にあった地元の新聞を児童に見せたいと思った。そこで、道のＮＩＥ推進協議会にお願いしたところ、コピーではあるが『河北新報』を用意することができた。

新聞記事の大きな見出し、大きな写真を見るたびに被害の大きさを感じる子ども達。その中で、新聞による違いを見つけていくことができた。特に、行方不明者や死者の名前の掲載については、それだけ心配している人が大勢いることをつかむことができた。

欲を言えば、この中に全国紙も比較対象として盛り込むべきであったと反省した。

授業のおおまかな流れは以下の通りである。



３．ＮＩＥの環境づくり

（1）スクラップ活動

５年生ということで、国語の教材の中で「情報ノート」が取り上げられている。スクラップのやり方を指導し、家庭学習での積み重ねを奨励した。

しかし、「新聞をとっていない家庭」が数件ある学級であり、「週に１回」などのルールを決めることが難しかった。スクラップ活動を推進していく上で、家庭環境も考慮に入れなければならない。

（2）掲示活動

前述の「岩手・宮城内陸地震」の記事は、模造紙に貼ってラーニングスペースに掲示した。休み時間に模造紙の前で記事を読む児童の姿もみられた。

地震の他、洞爺湖サミットの時にも同様の掲示物を作ってみた。多少手間のかかる活動ではあるが、やり方を工夫していけば、新聞記事を読みこむ児童が増えるのではないかと感じた。北京オリンピックや、オバマ大統領誕生など、大きなニュースをテーマとして取り上げると効果があると考える。

４．おわりに

いくつかの実践を通して、子ども達と新聞記事との距離は、これまでよりも近くなったと感じる。

ただ、新聞との距離を近づけることを目的とするのではなく、子ども達にどのような力を身につけさせるかが大事であると考える。それぞれねらいに即した活動があり、その中の１つとしてＮＩＥがあるのだと思う。